

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	A-139	14-156
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
<p>The association between obesity and lethal blood alcohol concentrations: a nationwide register-based study of medicolegal autopsy cases in Sweden. 肥満と致死血中アルコール濃度との関連：スウェーデン法医学検死登録症例の研究</p>		
執筆者		
Wingren CJ, Ottosson A.		
掲載誌		
Forensic Sci Int. 2014 Nov;244:285-8. doi: 10.1016/j.forsciint.2014.09.012.		
キーワード		PMID
法医学、致死アルコール中毒、肥満、疫学、リスクファクター		25300068
要 旨		
<p>目的： アルコール中毒死は、一般的に呼吸機能の低下により起こると考えられている。一方、呼吸器機能は標準体重者に比して肥満者が脆弱であると報告されている。致死アルコール血中濃度 (BAC, blood alcohol concentration) と肥満の関連は、知る限りではシステマテックには研究されていない。そこで、BAC は標準体重者に比して肥満者が低いとの仮説を立て検討を行った。</p> <p>方法： スウェーデン法医学検死登録による 1999 年から 2013 年までの法医学検死 79,060 症例のうち、ICD-9 及び ICD10 で第一次死因としてアルコール中毒が認められた 1,545 症例を抽出し、大腿静脈血中 BAC を測定した。BMI 30 kg/m² 以上の肥満 (18.5kg/m² 以上 25kg/m² 未満を基準) と BAC>3‰ (<3‰を基準) との関連を検討した。交絡因子として年齢、性、薬物、腐敗程度等を調整したロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>結果： 肥満は BAC と有意な負の関連があり (OR 0.55; 95%CI:0.41-0.75)、年齢、性、薬物、腐敗程度等を調整後も同様の結果であった (OR 0.54 ; 95%CI 0.39-0.74)。</p> <p>結論： 肥満者は、標準体重者に比して致死 BAC が低いことが示された。公衆衛生の観点から、肥満と過飲で不健康に至る関係は重要であり、肥満と致死 BAC 低値の関連は、アルコール中毒のアセスメントにも重要である。</p>		